

令和5年度(2023年度) 学校評価総括表 【伊丹市立稲野小学校】

教育目標		人間尊重を基盤として 豊かな心と健康な体を持ち 主体性・連帯性のある子どもを育てる 一いきいき なかよくのびのびと笑顔あふれる 稲野小学校一						
重点目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる授業・楽しい授業の実現に向けた授業改善に取り組む。</li> <li>・主体性を育む「ねらい」の提示・理解を深める「ふりかえり」活動を工夫していく。</li> <li>・思考を深めるために、意図的にペア・グループ活動を取り入れていく。</li> <li>・「～したい」と一人ひとりが主体的に取り組むことができる授業づくりを進める。</li> <li>・「話す力」向上に向け、系統的に言語活動に取り組む。</li> <li>・課題を明確にし、目的意識を持たせることにより、「聴く力」をつけていく。</li> <li>・気持ちのよいあいさつができるように取り組む。</li> <li>・仲間づくりや相談しやすい関係づくり、関係機関との連携を図っていく。</li> <li>・計画的、継続的に体力づくりに向けた授業づくりに取り組む。</li> <li>・タブレットを中心にICTの効果的な活用を図り、わかりやすい授業をすすめる。</li> <li>・ユニバーサルデザインの授業づくりをすすめる。</li> <li>・保護者、地域に対し学校の取り組みがわかるよう情報発信に努める。</li> </ul>						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成 学校教育	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	①個々の教師の資質を向上させる。	・校内研究授業を行い教師の資質向上に努める。 ・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。 ・パワーアップ研修などにより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。 ・どのように振り返るか学年・学校全体で共通理解を図る。	・各学年授業を公開し、授業研究に努める。 ・パワーアップ研修を年間4回程度行う。 ・全ての教師が、年間15回以上授業を見る。	B	・一人一授業を実施し、授業力の上昇に努めたが、これからは継続して取り組んでいく。 ・パワーアップ研修を5回行うことができた。 ・担任が付けて、他のクラスの授業を見に行こうという状況になっている。	・子どもたちの実態を見つめて取り組む、先生の資質向上に努めてほしい。 ・パワーアップ研修は、得意としている分野を他の先生に広げたり、コースに合わせて実施していただくことを望む。 ・先生の多忙化、人員不足は深刻な問題である。現場の対応だけでは困難な面もある中で、教育委員会等にも対策を講じてほしい。(先生の増員等) ・先生の多忙化解消に少しでも役に立てるように、できることは協力させていただきます。	・授業研究は明確なねらいを持って取り組み、先生の資質向上に努めてほしい。 ・パワーアップ研修は、得意としている分野を他の先生に広げたり、コースに合わせて実施していただくことを望む。 ・先生の多忙化、人員不足は深刻な問題である。現場の対応だけでは困難な面もある中で、教育委員会等にも対策を講じてほしい。(先生の増員等) ・先生の多忙化解消に少しでも役に立てるように、できることは協力させていただきます。
		②子どもたち一人ひとりの個性や能力に応じた教育を推進する。	・子どもの考えにより、子ども一人ひとりに関心してこそ居場所作りが出来る。 ・課題に対して出た子どもたちの疑問を「あて」とし、子どもたちの主体性を伸ばしていくようにする。	・わからないことを自分から質問できるようにする。 ・児童のアンケートの「学習でわかりにくいこと」を、先生に質問しやすい項目で、肯定的評価が70%以上になる。	B	・子どもの考えにより、一人ひとりを尊重して、安心できる場所づくりができた。 ・児童アンケートの「学習でわかりにくいことを先生に質問しやすい項目で肯定的評価が75%だった。	・子どもたちの現状や様子をつまかむことにより、これからも継続して取り組んでいく必要がある。 ・「わからない」「どうして」「わかった」とつぶやけることが当たり前の学びの場を大切にしたい。	・先生にわからないことを質問できるといふだけでも重要なことである。75%が上昇傾向にあるのは良かったが、もっともっと高めたい。
		③家庭と学校をつなぐため、学校情報を積極的に発信する。	・ホームページを通して学校情報や学年からの情報を積極的に発信する。 ・「学校だより」、「学年通信」を充実させ、学校の情報を積極的に発信する。	・週に1回以上ホームページを更新し、日常の学校生活を伝える。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」項目で肯定的意見が90%以上になる。	B	・授業のある平日は毎日、ホームページの更新を行い、子どもたちの様子を伝えることができた。 ・保護者アンケートの「学校の教育方針や行事・活動の様子を知っている」項目で肯定的意見が82.8%であった。	・ホームページの更なる活用と周知に努める。 ・保護者アンケートの、学校は「学校行事(授業参観・体育大会・園遊会・音楽会・オープンスクール等)で学校公開している項目で肯定的意見が97.0%であったので、懇談会等の機会を利用して必要な情報を発信していくことに努める。	・タブレットやスマホなど、ICT機器の活用はこれからの子どもたちにも必要であると思うが、保護者はいつでもタブレットやスマホに触れてやめない状況を不安に思っているという声もある。ルール作りや情報モラル教育にしっかりと取り組んでほしい。
新しき時代に対応した教育の推進 ①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①情報活用能力の育成 ②英語教育の充実 ③デジタル化の促進	①学習活動において、タブレット等の情報機器を適切に使い、情報を得る力や情報モラルを養う。	・学活や道徳、いじめの時間等を活用して、調べ学習を積極的に行う。 ・タブレットの使い方について、継続的に指導する。 ・必要に応じて講師を招き、情報モラル講習を行う。	・学習用端末を含めた情報機器のよき使い手となる。	A	・学年に応じた情報モラル教育に取り組んできたが、GIGAスクールへの慣れもあり、トラブルが出てきた。特に新生児への繰り返しの指導が大切だと思った。	・タブレット使用のきまりを再度徹底するとともに、情報モラル教育に関しては、各学年1度は取り組むように仕組みを作っていく。	・タブレットやスマホなど、ICT機器の活用はこれからの子どもたちにも必要であると思うが、保護者はいつでもタブレットやスマホに触れてやめない状況を不安に思っているという声もある。ルール作りや情報モラル教育にしっかりと取り組んでほしい。
		②中学年で「聞くこと、い話すこと」を中心に英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを図る素地を養う。	・ア)チャンツ、ゲーム、スモールトーク、クイズなどで聞く活動を重ねる。 ・イ)ペアやグループでの会話の場を設定したり、スピーチ活動に取り組む。 ・ウ)教科書の内容やALの紹介文などの読む活動をする。 ・エ)アルファベットや各単元で学んだ単語、表現をワークシートで練習したりスピーチ原稿作成に取り組んだりする。	・ア)日本語と外国語の発音の違いに気付いたり、基本的な表現を聞いて意味が分かるようになる。 ・イ)アイコンタクト、ジェスチャーなど相手により伝わるよう工夫しながら話す。 ・ウ)基本的な語彙や文を推測しながら読むことができる。 ・エ)アルファベットの次文字小文字を書いたり語順を意識しながら、例文等を参考に書くことができる。	・A)聞く活動を十分取り入れた。 ・イ)ペアやグループ活動、そしてスピーチ活動を有効的に活用し、コミュニケーションを図るような場を設定した。また相手を感じやすい気持ちになるように工夫した。 ・ウ)教科書や参考文などで読む活動を取り、ワークシート等で書く時のルールや4線以上の書き方などの意識をしながら書く練習をした。	・A)聞く活動を十分取り入れた。 ・イ)ペアやグループ活動、そしてスピーチ活動を有効的に活用し、コミュニケーションを図るような場を設定した。また相手を感じやすい気持ちになるように工夫した。 ・ウ)教科書や参考文などで読む活動を取り、ワークシート等で書く時のルールや4線以上の書き方などの意識をしながら書く練習をした。	・引き続き児童にとって分かりやすく、興味を持って取り組めるような授業作りをしていく。	・引き続き、楽しい英語の授業を目指して頑張りたい。
		③次席連絡やお手紙のデジタル配信	・全校に配る手紙はデジタル配信を原則とする。	・保護者との連絡手段としてデジタル配信が浸透する。	・保護者との連絡手段としてデジタル配信が浸透する。	B	・連絡手段として、定着してきている。引き続き、ユーザー目線の使いやすさについての検討が必要だと思われる。	・発信方法等について、検討していきたい。
「豊かな心」の育成 ①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止 ③発達段階に応じた組織的な取組の推進 ④不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ⑤体験活動等の実施	①道徳教育の推進 ②いじめ等の未然防止 ③発達段階に応じた組織的な取組の推進 ④不登校の児童生徒やその保護者への支援体制の充実 ⑤体験活動等の実施	①豊かな心を育む道徳教育の推進	・実生活に合った道徳、人権教育の授業に取り組む。 ・教科書(あかつき)を中心として、「こころはばたく」などの心シリーズを十分に授業で活用する。 ・「月目標」を設定し、全児童、全職員で取り組む。	・他人に対しての「思いやり」と自分の「あきらめない気持ち」をもつて、児童生活を送ることが出来る。 ・児童アンケートで「自分を大切にすることや友だちを大切にすること」について「学んでいる。」の項目で、肯定的評価が90%以上になる。	B	・児童の実態に合わせて、道徳的心情や実践意欲を高めるための授業や学級指導、生活指導を行った。 ・児童アンケートで「自分を大切にすることや友だちを大切にすること」について「学んでいる。」の項目で、肯定的評価が94.2%であった。	・教材を通して、望ましい行動や心情を学び、実践生活での他者への思いやりや自分自身の活動につなげていくように、研修などの取り組みに努める。 ・「心シリーズ」の活用について、活用の引き出しを図って、さらに来年度新編の教科書と照らし合わせて、効果的に取り組んでいく。	・あいさつなど、先生が子どもたちの手本となるようにしてほしい。
		②いじめ等の未然防止に努める。いじめへの早期発見、早期対応を図る。	・日記やチェックシート等を活用し、いじめの状況とその変化を継続して把握する。 ・子どもと一対一で懇談する時間を設定する。(随時) ・毎日、児童のよいところを見つけてほめる。 ・休み時間の様子把握する。 ・研修会を開き、職員間でいじめについての理解を深める。	・児童アンケートで「やみやみや不安があるとき、だから先生や友だち・親などに相談できる」項目で、肯定的評価が80%以上になる。	B	・「相談しようと思う人がいる。」に対する肯定的評価は、78～74とやや減少した。話しやすい環境作りが求められる。 ・いじめアンケートの認知件数の総数は74件であった。各担任にはアンケート終了後の丁寧な聴き取り、その後の指導等をお願いした。 ・1学期に学校カウンセラーによるいじめの研修会を開き、職員間でいじめについての理解を深めることができた。	・アンケートで把握した事例については、丁寧に関わりを行い、「いじめ認知」の判別に関する場合は、必ず学年や生徒指導担当に相談する。その際、そうした情報を学年で十分に共有しておく必要がある。いじめが「認知」された事実の中で、必要があれば、「いじめ対策委員会」を開催し、改善策等を講じる。	・土曜学習のように、地域からボランティアで子どもの居場所作り協力できることもあるのではないか。 ・子ども1対1で話す機会をぜひ作ってほしい。
		③不登校傾向児童への早期対応を図る。	・保護者、担任、不登校対策支援員、学校カウンセラー、SSWとの連携を深め、児童への働きかけを行う。 ・担任だけでなく、学年や全職員で情報共有し、共通理解を図る。	・早期対応に努め、不登校児童を出さないようにする。	B	・現在7名が相談室を利用している。現時点ではほぼ全欠2名おり、100日以上欠席している児童は9名いる。(P5、2月)月現在別室登校や放課後登校、関係性を切らなれた課題や連絡のやり取り等、継続して取り組む必要がある。 ・相談室内の整備 など ・SCと連携し、不登校に関する研修を開く。	・市費担当者の継続を市教委に要望する。 ・相談室の運用方法の再考 ①市費担当との連絡調整 ②ソフト表及び連絡ファイルの作成 ③欠席連絡の確認と指示 ④相談室内の整備 など ⑤SCと連携し、不登校に関する研修を開く。	・不登校対策支援員が配置されることが決まり、とても良かった。 ・不登校児童が増えている現状で、やはり子どもの話を丁寧に聴くことが大事だと思う、もし手伝えることがあれば協力します。
④学年に応じた体験活動を実施する。	・社会見学や自然体験活動、平和学習などの校外学習及び、校内行事の充実を図る。	・各学年、事前学習や事後学習を行い、体験したことを学びにつなげる。 ・「学校行事などは楽しい。」の項目で肯定的評価が90%以上になる。	B	・各学年で、発達段階に応じた社会見学、自然体験活動、平和学習を計画していた。 ・「学校行事などは楽しい。」の項目で肯定的評価が95.5%であった。	・各クラスの残食を減らすよう取り組んでいる。しかし、残食はまだあるので、引き続き声かけをしていく。 ・委員会の児童がいかなる企画を考えて各学年に食について考える機会を作ることができた。 ・調査の結果、残食が減った。	・来年度も引き続き各クラスで声をかけていく。 ・来年度の委員会活動でも各学年に呼びかけたい。 ・委員会の児童がいかなる企画を考えて各学年に食について考える機会を作ることができた。	・残食が減ったのは良い傾向である。食事の時間を確保してやりたい。	
「健やかな体」の育成 ①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①児童生徒の体力向上の促進 ②魅力ある部活動の推進 ③発達段階に応じた健全な食育の推進	①自らすすんで体力を向上させようとする意欲を育てる。	・体育施設の割り振り方の工夫や、学習内容を系統立てた「がんばりカード」などを用いて体力の向上を図る。 ・「パワーアップタイム」を充実させる。 ・スポーツパッチの取り組みを保持する。	・学年に応じた「がんばりカード」で自分の伸びを記録し、設定した目標を達成させる。 ・全員がすすんで外で運動するようになる。 ・「学校行事などは楽しい。」の項目で肯定的評価が90%以上になる。	B	・「がんばりカード」に自分の伸びを記録し、主体的に目標を達成しようとする意欲を高めた。 ・数中座指数が高いときに屋外の体育ができなかった。 ・「パワーアップタイム」で行うサーキットトレーニングについての研修会を開き、職員の授業力向上に努めた。	・引き続き「がんばりカード」の活用を進め、主体的に運動に取り組む児童を育成する。 ・作成した教材はデータで保存する。 ・次年度夏期の体育館割り当てを検討する。	・子どもも体力作りのためにも、外遊びを推奨してほしい。
		③全校生に食に関する興味や関心を持たせ、健康に過ごすことへの意欲を育てる。	・2年生の児童に対し、食に関する指導を実施する。 ・給食委員会を、全校生に食に興味を持ってもらえるような取り組みをする。	・食に興味を持つ子が増える。 ・給食の残食が減った。	B	・各クラスで残食を減らすよう取り組んでいる。しかし、残食はまだあるので、引き続き声かけをしていく。 ・委員会の児童がいかなる企画を考えて各学年に食について考える機会を作ることができた。 ・調査の結果、残食が減った。	・来年度も引き続き各クラスで声をかけていく。 ・来年度の委員会活動でも各学年に呼びかけたい。 ・委員会の児童がいかなる企画を考えて各学年に食について考える機会を作ることができた。	・残食が減ったのは良い傾向である。食事の時間を確保してやりたい。

<p><b>教育相談・支援体制の充実</b></p> <p>①キャリア教育の推進 ②スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ③教育相談の充実</p>	<p>①キャリア教育全体計画に基づき、各学年の年間計画を進めている。</p> <p>②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連絡を取り合う。</p> <p>③保護者の悩みに寄り添い、教育相談等へつないでいく。</p>	<p>・キャリアパスポートを活用する。 ・各学年の年間計画を実施していく。</p> <p>・教育相談を随時行う。(担任、学年生指、支援員、SC、SSW、管理職)</p> <p>・気になる児童については、学年を中心に、管理職、生指、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、支援員、SC他、多方面からの情報を収集し、分析・検討しながら、適切な支援のあり方を模索する。</p> <p>・懇談会等で保護者から聞き取ったことを学校全体で情報共有していく。</p>	<p>・キャリアパスポートを記入する。 ・年間計画に基づき、授業を実施する。</p> <p>・専門機関を交えて、適切な支援方法を考え、実施する。</p> <p>・懇談会等で保護者から相談を受けたことを早急に学年・学校で検討し、悩みに応じて教育相談等につなぐ。</p>	<p>B</p> <p>・年度初めにキャリアパスポートを活用して目標を設定し、年度途中と年度末に自分を振り返り、成長を実感させることができた。</p> <p>・教育相談は、巡回相談や医療連携相談を随時行っている、適切に対応できた。</p> <p>・部会や、日頃の報告・連絡を通じて情報を共有・検討し、適切な支援を模索できた。</p> <p>・保護者から相談を受けたものは、適切に関係機関につなぐことができた。</p>	<p>・引き続き自分で目標設定し、その都度振り返り、成長を実感させる。</p> <p>・今後も、巡回相談や医療連携相談を行い、保護者・教職員にも周知をしていく。</p> <p>・引き続き、報告・連絡を密にして、適切な支援を模索していく。</p> <p>・今後も、懇談会などで出た相談内容を元に適切な機関へつないでいく。</p> <p>・子どもや保護者への対応の仕方でも先生によっていろいろだと思うが、大事な事は同じだと思うので、そこを共通理解してほしい。</p>
<p><b>特別支援教育の推進</b></p> <p>①伊丹特別支援学校の活性化 ②特別支援教育の充実</p>	<p>②支援を必要とする子どもたちについて、集団参加・学力・身体的補助などの面から合理的配慮を含む取り組みを考えていく。</p>	<p>・特別支援学級では、個に対応し、地域と連携した具体的な教育活動の計画を進める。</p> <p>・交流学級においては、クラスの一人としての集団への参加や意欲を育て、お互いに助け合い、共に生きていこうとする力を培っていく。</p> <p>・子どもたちのこと、保護者の願いについての理解を深めるための研修会をもつ。</p>	<p>・個別の指導計画を立て、それに基づいて授業や支援を行う。</p> <p>・クラスでの居場所作り、学校行事に自分なりに目標を持って参加することができる。</p> <p>・二者懇談会、三者懇談会を通し、保護者の願いを聞き取り、職員の研修会を通し、全職員での把握につなげる。</p>	<p>B</p> <p>・個別の指導計画に基づいて授業や支援を行うことができた。</p> <p>・毎週シフトを組み、必要に応じ入り込み支援を行い、自分なりに目標を持って行事等に参加することができた。</p> <p>・人手不足でどうしても支援に入れない時があった。</p> <p>・研修会や日々の連絡帳のやりとりを通じて保護者の願いを聞き取り、それを職員研修会で共通理解できるように努めた。</p>	<p>・できるだけ支援に入れるように、今後もシフトを工夫する。</p>
<p><b>教職員の資質向上</b></p> <p>①研修等の充実</p>	<p>①授業力向上や児童対応など、さまざまな研修を計画的に実施する。</p>	<p>・校内研修の枠を広げ、自主的に授業公開を行い、互いに見合う機会を増やす。</p> <p>・パワーアップ研修などのより具体的な研修を行い、個々の教師の資質を向上させていく。</p> <p>・夏季研修会の充実を図る。</p>	<p>・各学年授業を公開し、授業研究に努める。</p> <p>・パワーアップ研修を年間4回程度行う。</p> <p>・全ての教師が、年間16回以上授業を見る。</p> <p>・学校の現状に合わせた研修会を実施する。</p>	<p>B</p> <p>・一人一授業を実施し、授業力の向上に努めた。</p> <p>・パワーアップ研修を3回行うことができた。</p> <p>・担任が抜けて、他のクラスの授業を見に行くことがしにくい状況になっている。</p>	<p>・研修や公開授業を通して、教師側の疑問や悩みを解消し、納得できるものを得ることができた。教職員の資質向上は上がる。そのために、研修や研究内容の充実を行っていく。</p>
<p><b>学校を支える組織体制の整備</b></p> <p>①コミュニティ・スクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築</p>	<p>①教育目標や教育活動、子どもたちの現状や課題について、保護者や地域との共通理解を深める。</p> <p>②地域と学校が目標や情報、課題意識を共有し、連携して地域の特色を活かした教育活動に取り組む。</p>	<p>・子どもたちの現状や課題について、地域と教職員とが意見交換し、共通認識を持つ機会を設定する。 ・PTAと連携しながら「見守り隊」への参加者を募る。</p> <p>・学校や子どもたちの課題を見つめ、地域と連携した具体的な教育活動の計画を進める。</p> <p>・地域の力を借りながら、子どもたちを育む教育活動を展開する。(畑づくり、町探検、九九チェック等)</p>	<p>・地域と教職員とが意見交換できる場を1回は設定する。</p> <p>・見守り隊募集の手紙を作成し、呼びかける。</p> <p>・地域と連携した具体的な教育活動について協議し、実施する。</p> <p>・具体的な取り組みについて振り返り、課題を共有して次年度に活かしていく。</p>	<p>B</p> <p>・教職員を交えた学校運営委員会を開催することができた。</p> <p>・教職員からの依頼にあった2年生・3年生の九九チャレンジを地域の方々の協力で実施できた。</p> <p>・前年行っている畑作り、町たんけんについても地域の方々の協力を得て実施できた。</p> <p>・ミン指導の講習会など、議題に上がった内容について取り組むことができた。</p> <p>・見守り隊の方々の情報交換や、児童とお礼の会を計画した。</p> <p>・スクールガードの募集は呼びかけを行っていたが、集まらないのが現状で、学校運営協議会では具体的な子どもたちの姿を通して課題や取り組み内容について話し合うことができた。</p> <p>・九九チャレンジに来ていただいた方々に、ボランティア人材バンクに登録していただいた。</p> <p>・地域と連携した教育活動の内容を振り返り、成果と課題について話し合うことができた。</p>	<p>・来年度も地域と教職員が意見交換できる場を設定し、学校の課題や取り組みについての情報を共有する機会を作る。</p> <p>・地域やPTAに協力を依頼する場合、できるだけ早く情報を伝えられるように配慮する。</p> <p>・見守り隊のお礼の会については来年度も実施し、意見交換の場も作りたい。</p> <p>・PTAと連携しながら引き続き、見守り隊の募集を行う。</p> <p>・今後もしっかりと情報共有しながら子どもたちの姿を通して課題や取り組みについて考えていく。</p> <p>・協力をお願いしたい学校支援について話し合う機会を持ち、可能なことから実施していく。</p> <p>・今年度の成果と課題をもとに、来年度のより良い学校支援の実施を目指していく。</p> <p>・見守り隊のお礼の会は継続してほしい。</p> <p>・スクールガードの人員減少が心配である。交通安全だけでなく、犯罪の抑止力にもなっているのでも、ぜひ、呼びかけて募集していただきたい。</p>
<p><b>教育環境の整備・充実</b></p> <p><b>安全・安心な教育環境の充実</b></p> <p>①学校園防犯訓練・防災教育の充実 ②子どもたちの安全対策の推進 ③交通安全対策の推進 ④学校園施設の整備・維持保全 ⑤学校における働き方改革の推進</p>	<p>①組織として対応できるように、また個々の教師の資質を向上させる。</p> <p>②教師が、火災・防犯・地震の基本的な知識を知る。</p> <p>③毎月、登校指導を行い、共通理解する内容を出し合う。学級毎に指導する。</p> <p>④毎月、安全点検を行い、児童が安全に学校生活が送れるように環境を整備する。</p> <p>⑤職員の見せもに、働きやすい環境作りを行う。</p>	<p>・夏季休業中に不審者対応研修を設定し、教師の動き、急行班の動き、歩み、学校全体の連絡体制の確認をする。</p> <p>・防犯訓練の事前指導を行う。</p> <p>・担当が作成した資料をもとに、火災・防犯・地震の避難訓練の前と後に学級指導を行う。</p> <p>・児童が自らの生命や身体を守るために必要な知識と態度を身につける。</p> <p>・放送をよく聞き、指示に従って落ち着いて避難するとともに、避難経路を知る。</p> <p>・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90%以上になる。</p> <p>・安全点検で不備を把握し、管理職に修繕依頼し、速やかに対処する。</p> <p>・定時退勤日やノーマル会議デーを設定する。</p> <p>・業務改善委員会を設置し、適宜会議をもつ。</p>	<p>・児童は、校内に不審者が侵入した際に、安全な避難行動をとることができる。</p> <p>・教師は、緊急時における児童の安全確保と状況に応じた対応をとることができる。</p> <p>・児童が自らの生命や身体を守るために必要な知識と態度を身につける。</p> <p>・放送をよく聞き、指示に従って落ち着いて避難するとともに、避難経路を知る。</p> <p>・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90%以上になる。</p>	<p>B</p> <p>・不審者避難訓練を実施し、安全な避難行動をとることができた。</p> <p>・教職員は不審者対応訓練を実施し、児童の安全を確保するための行動を考え、対応した。</p> <p>・資料を有効活用して事前指導を行った。</p> <p>・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が92.3%だった。</p> <p>・毎月登校指導を行った。</p> <p>・交通ルールやマナーを守れていないこともあり、その都度学級指導をした。</p> <p>・保護者アンケートの「学校では、児童の安全に関する適切な指導及び対応が行われている。」で、肯定的評価が90%以上だった。</p> <p>・修繕が間に合わない月があった。</p> <p>・ノーマル会議デー・定時退勤デーについては実施できるように、行事計画に位置付けられていた。しかし、定時退勤については、時間内に業務を完了できなかった。</p> <p>・職員の見せもに、働きやすい職場環境作りを目指した。</p>	<p>・引き続き有事に備えて訓練を行う。</p> <p>・新しい資料の作成に取り組む。</p> <p>・資料を活用しながら、児童にわかりやすい安全指導を行う。</p> <p>・普段から放送が始まったら聞くことを機会があることに、指導して身につけさせる。</p> <p>・引き続き全職員で登校指導を行い、多くの目で子どもたちの交通ルールやマナーの現状を把握し、適切な指導をしていく。</p> <p>・引き続き安全点検を行い、学習の場として安全であることに努める。</p> <p>・遊具については複数で点検する。速やかに修繕が進むよう、声かけていく。</p> <p>・全職員が定時退勤できるように、更に業務改善を図り、職員の負担軽減を目指す。今後も、行事計画にノーマル会議デー・定時退勤日を位置付けていく。</p> <p>・全職員の共通理解のもと、働きやすい職場づくりに皆で参画していく。</p> <p>・昨年度の課題をふまえ、改善策を出しているが、児童にわかりやすい安全指導をしっかりと聞くことはとても大切なことである。ぜひ身につけてほしい。</p> <p>・保護者の自転車のマナーが気になる。</p>

**学校関係者評価総括**  
 教職員の多忙化や人員不足が心配である。なん何とかなしたい、地域の力でできることは協力するので、相談してほしいという声が多く聞かれた。子どもたちを学校だけでなく、保護者、地域が協力して育んでいくという意識が大切である。そのための連携をしっかりととりながら、子どもたちにとって何が必要なかを考えて教育活動をしていきたい。

**次年度に向けた重点的な改善点**  
 ・不登校対策(子どもの居場所作り)  
 ・学力、体力向上の手立て  
 ・子どもたちが自校を誇りに思い、生き生きと活躍する学校作り(創立150周年に向けて)

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った